

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 8 巻第 21 号

第 21 週(5月19日～5月25日)

発行年月日:平成20年(2008年)5月29日

発行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

今週の感染症発生動向

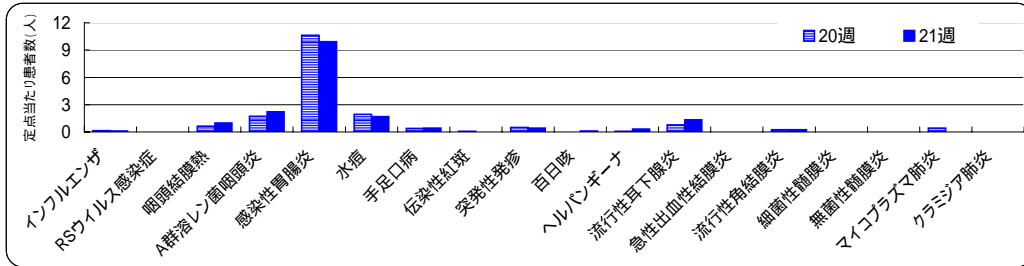
咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の発生は、昨年同時期より増加傾向

定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は前週の報告数よりやや多くなっています。今週増加した疾患は咽頭結膜熱(プール熱)、A群溶レン菌咽頭炎、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)等で、減少した疾患は水痘、感染性胃腸炎等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

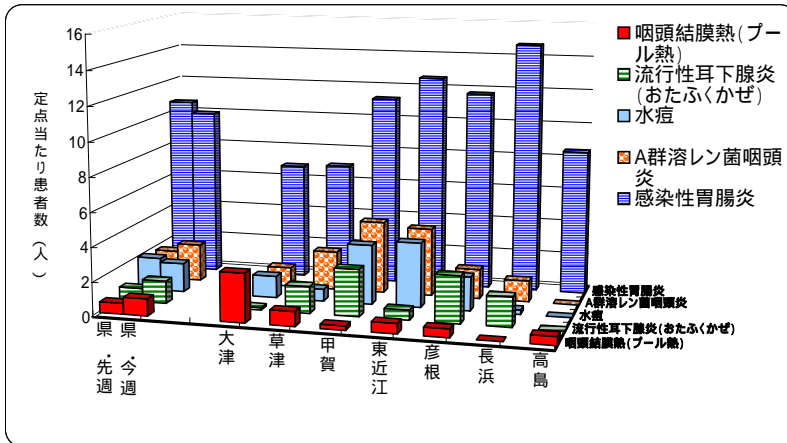
「感染症発生動向調査に基づく感染症の警報・注意報システム」によると、咽頭結膜熱では大津保健所管内で、A群溶レン菌咽頭炎では甲賀および東近江保健所管内で**警報発生基準値(開始)を超えています**(警報・注意報システムおよび基準値については今週の発生状況参照)。

全数把握対象疾患では、二類感染症の結核で3名、五類感染症のアメーバ赤痢で1名の届出がありました。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の発生状況(定点把握対象五類感染症、第21週、定点当たり患者数)

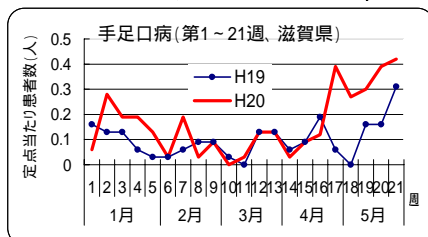


県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおり、感染性胃腸炎、A群溶レン菌咽頭炎、水痘、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、咽頭結膜熱(プール熱)の順に多くなっています。

咽頭結膜熱(プール熱)は大津で、A群溶レン菌咽頭炎は草津で急増しています。また、水痘は甲賀および東近江で多くなっています。

手足口病の発生状況

(平成19年第1～21週、平成20年第1～21週)



滋賀県における平成20年第1～21週の発生状況は、昨年の同時期よりかなり多くなっています。手足口病は1年間隔で増減を繰り返しているため、今後の発生状況に注意する必要があります。全国においても、昨年同時期よりやや多くなっています。

一方、中国の安徽省では死亡例を含む手足口病が急増しており、6～7月にピークを迎えると予測されています。死亡例患者からは、全てエンテロウイルス71型(EV71)が検出されています。日本におけるEV71の検出は、現在のところ少数ですが今後のウイルスの動向に注意が必要です。また、滋賀県ウイルス検出情報によると、1月に採取した手足口病患者の検体からEV71が1件検出されています。

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (21週)	累積報告数		平成19年報告数	
			滋賀 (21週)	全国 (21週)	滋賀	全国 ^(*)
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	結核	3	98	9,405	178	20,151
三類感染症	細菌性赤痢	0	0	106	^(*) 2	450
	腸管出血性大腸菌感染症	0	7	489	55	4,586
四類感染症	パラチフス	0	0	15	1	22
	E型肝炎	0	0	18	1	54
	A型肝炎	0	0	69	1	154
	デング熱	0	1	23	1	89
	マラリア	0	1	12	1	52
五類感染症	レジオネラ症	0	2	288	8	655
	アメーバ赤痢	1	3	312	15	781
	ウイルス性肝炎	0	2	78	2	231
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	60	4	148
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	54	1	96
	後天性免疫不全症候群	0	4	550	9	1,449
	ジアルジア症	0	1	31	1	56
	梅毒	0	1	295	2	714
	破傷風	0	1	30	0	88
	急性脳炎	0	0	79	2	216
	風しん ^(*)	0	0	178	-	-
	麻しん ^(*)	0	7	8,415	-	-

* 1: 平成19年の全国報告数は、平成19年に滋賀県で報告された疾患を対象としています。

* 2: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含み増す。

* 3: 平成20年1月1日から全数把握対象疾患に変更。 - ; 定点把握対象疾患のため、全数報告数は未集計

全国における全数報告感染症の発生状況 - 第21週(5/19～5/25) -

一類感染症: 報告なし	二類感染症: 結核 350例	三類感染症: 細菌性赤痢 2例	腸管出血性大腸菌感染症 58例	腸チフス 3例	四類感染症: A型肝炎 2例	コクシジオイデス症 1例	つつが虫病 9例	四類感染症: デング熱 1例	マラリア 1例	オウム病 1例	レジオネラ症 13例	五類感染症: アメーバ赤痢 10例	梅毒 10例	破傷風 3例	風しん 5例	麻しん 236例	五類感染症: 後天性免疫不全症候群 13例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2例	クロイツフェルト・ヤコブ病 5例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例	ウイルス性肝炎 1例
-------------	----------------	-----------------	-----------------	---------	----------------	--------------	----------	----------------	---------	---------	------------	-------------------	--------	--------	--------	----------	-----------------------	-------------------	------------------	--------------------	------------

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。*疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(平成20年第16～21週、4/14～5/25)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	16週		17週		18週		19週		20週		21週	
	(4/14～)	(4/21～)	(4/28～)	(5/5～)	(5/12～)	(5/19～)	17	18	19	20	21	
インフルエンザ	0.28	0.15	0.11	0.13	0.15	0.09						
RSウイルス感染症	0.06	0.06	0	0.03	0	0						
咽頭結膜熱(プール熱)	0.58	0.27	0.33	0.39	0.64	1.00						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.03	1.24	1.73	1.18	1.73	2.21						
感染性胃腸炎	11.27	11.06	10.58	10.39	10.61	9.94						
水痘	1.67	1.33	2.09	2.12	1.94	1.70						
手足口病	0.12	0.39	0.27	0.30	0.39	0.42						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.18	0.12	0.03	0.12	0.06	0						
突発性発しん	0.36	0.33	0.42	0.42	0.48	0.42						
百日咳	0.09	0	0.15	0.03	0	0.09						
ヘルパンギーナ	0	0.03	0.06	0.09	0.06	0.30						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.52	0.48	1.00	0.91	0.79	1.33						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0	0.13	0.13	0.63	0.25	0.25						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0.14	0	0.43	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						

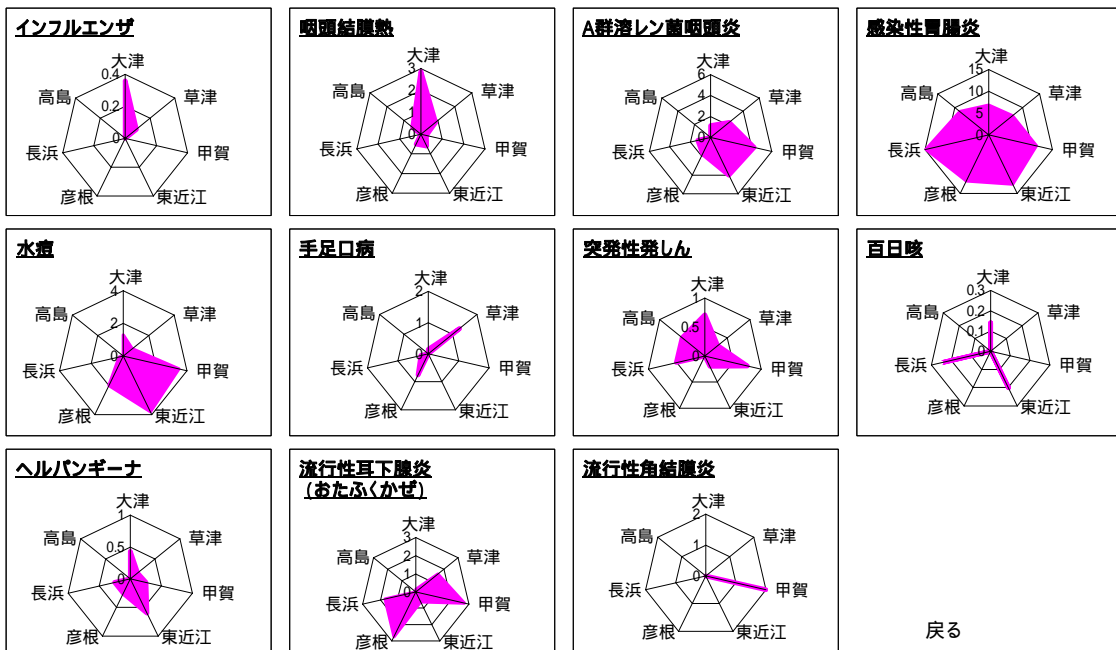
(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第21週、5/19～5/25)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0.09	0.36	0.09	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱(プール熱)	1.00	2.86	0.86	0.25	0.60	0.50	0	0.50	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.21	1.14	2.29	4.25	4.00	1.75	1.25	0	
感染性胃腸炎	9.94	6.86	7.00	11.25	12.60	11.75	14.75	8.50	
水痘	1.70	1.29	0.71	3.50	3.80	2.00	0.25	0	
手足口病	0.42	0.14	1.29	0	0	0.75	0.25	0	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0	
突発性発しん	0.42	0.71	0.29	0.75	0.20	0	0.50	0.50	
百日咳	0.09	0.14	0	0	0.20	0	0.25	0	
ヘルパンギーナ	0.30	0.43	0.14	0.25	0.60	0.25	0.25	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.33	0.14	1.57	2.75	0.60	2.75	1.75	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.25	0	0	2.00	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	

■ は定点当たり患者数が先週より増加 ■ は警報発生中 ■ は注意報発生中

0 3 6 9 12
定点当たり患者数(人)

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

- 咽頭結膜熱-----大津で先週よりさらに多くなり、定点当たり患者数は警報発生開始基準値(2.00)を超えています。
- 水痘-----先週多かった甲賀では注意報発生基準値(4.00)を下回りましたが、定点当たり患者数は3.50とやや多い状態となっています。
- 百日咳-----第18週(4/28～5/4)以降、増加傾向を示しています。今週は大津、東近江、長浜からそれぞれ1名ずつの報告があり、年齢別では5～11ヶ月、2歳、5歳となっています。

<<感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム>>

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに警報レベルおよび注意報レベルの基準値を設定し、その基準値を超えた時に流行発生警報(警報)あるいは流行発生注意報(注意報)という表現により流行状況を示しています。

流行発生警報

流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

流行発生注意報

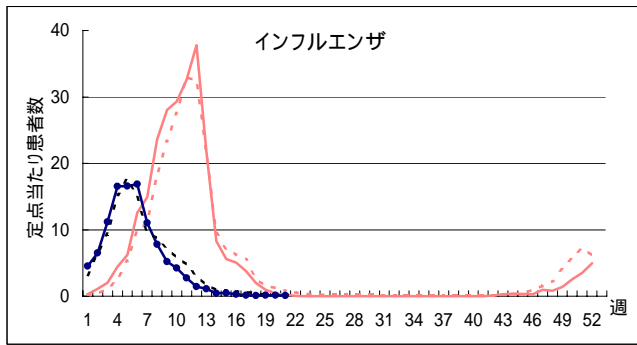
流行発生注意報という表現により今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性がある、または現在も流行が継続している可能性があるという情報を提供しています。

警報・注意報の基準値

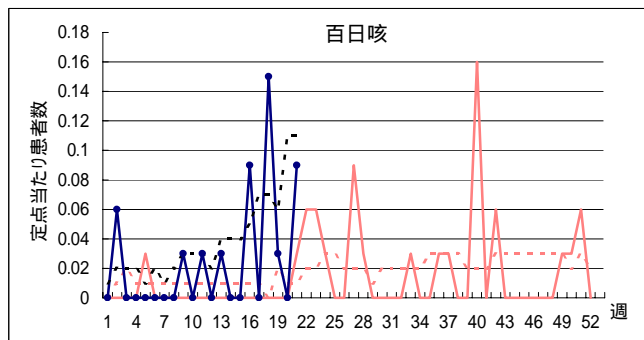
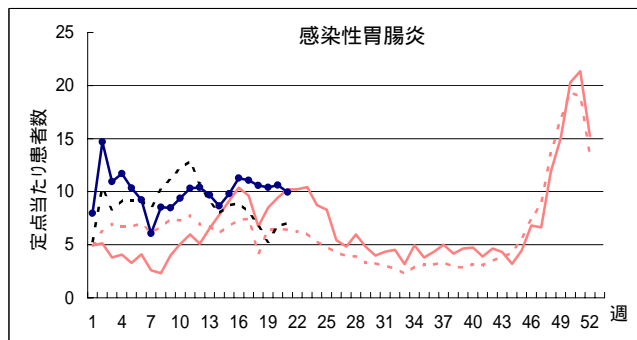
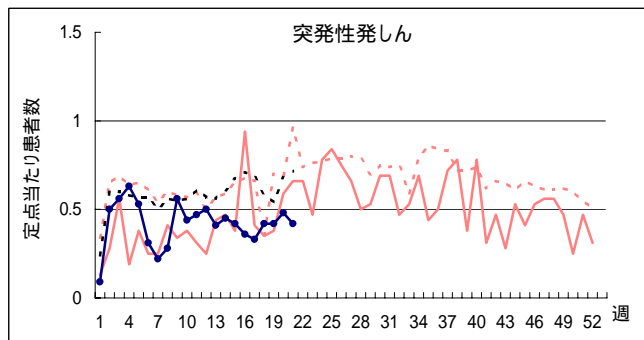
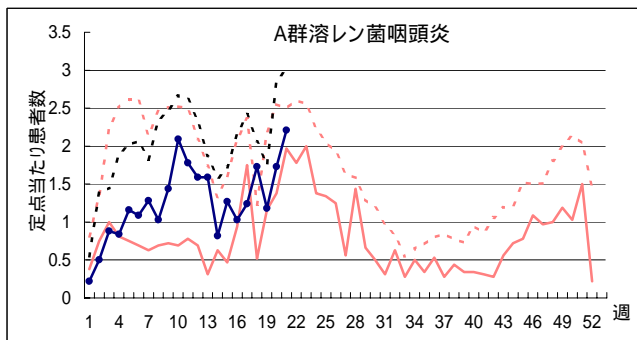
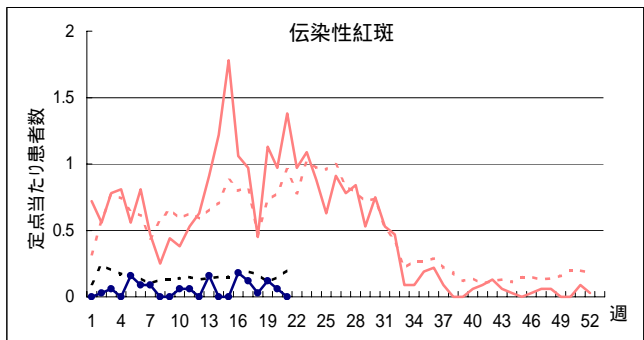
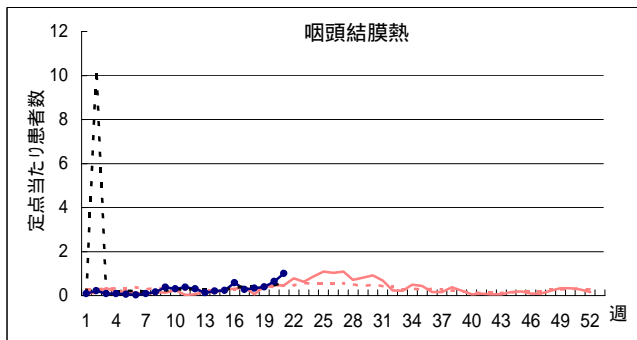
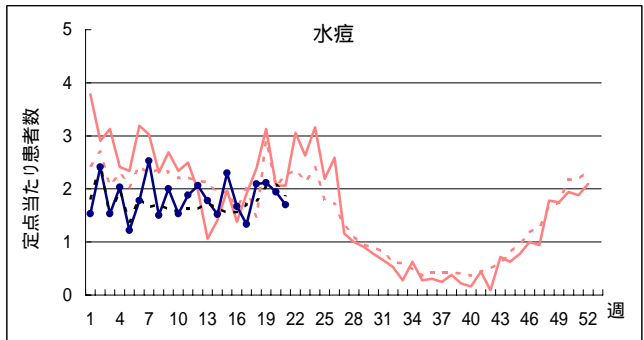
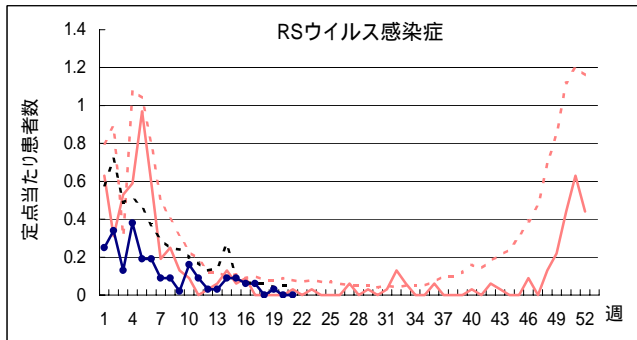
対象疾患	警報	
	開始基準値	継続基準値
咽頭結膜熱(プール熱)	2.0	0.1
A群溶レン菌咽頭炎	4.0	2.0

基準値は定点当たり患者数(人)

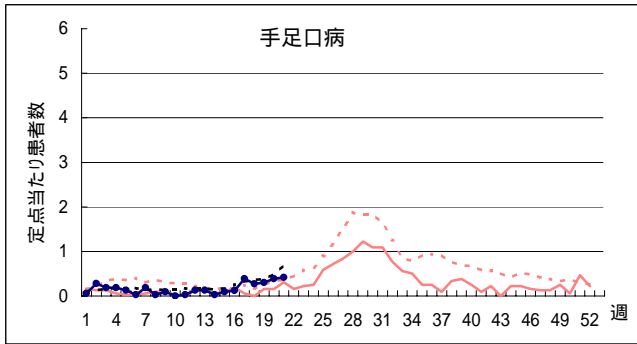
疾病別定点当たり患者数(平成20年第21週、H19.12.31～H20.5.25)



H19 { 滋賀 ————
 全国
 H20 { 滋賀 —●—●—
 全国



疾病別定点当たり患者数(平成20年第21週、H19.12.31～H20.5.25)



H19
 〔 滋賀 ————
 全国 - - - - -
 H20
 〔 滋賀 ●●●●●
 全国

